

ボーイスカウト都道府県連盟  
理 事 長  
県コミッショナー 各位  
事 務 局 長

公益財団法人ボーイスカウト日本連盟  
総コミッショナー 木 村 寿 宏  
第19回日本スカウトジャンボリー運営委員長 和 田 剛 和

第19回日本スカウトジャンボリーにおける「令和8年熊本地震」に関わる  
取り組みについて（依頼）

令和8年7月30日付け「令和8年熊本地震の発生を受けて」において、第19回日本スカウトジャンボリー（19NSJ）を「スカウトらしい質実な運営の下、『今、全国のスカウトが集うからこそできる支援と学びの実践』を大会の最優先テーマの一つに掲げる。」とし、「3つの社会的意義と具体的なアクション」についてお知らせをしたところです。

大会期間中に取り組んだその3つのアクションについて、次のとおりご報告申し上げます。本件は今後の「令和8年熊本地震」被災地への支援に関して、大変重要なものでありますので、ジャンボリーに関わった指導者、ローバースカウト、参加スカウトはもとより、多くの関係者にご周知いただくようお願いいたします。

1. 全国から集まるスカウト関係者の集結を「支援の力」に変える

会場内での募金箱の設置、地域プログラム（福山市内・尾道市内・今治市内）でのスカウトによる街頭募金活動、派遣隊（台湾連盟、石川県連盟、京都第3隊）の自主的な募金活動により、1,351,693円が集まりました。この募金は義援金（スカウト関係者が街頭等で呼びかける被災者、被災地域のための募金）として、全額を熊本県に寄付します。

2. 「自ら考え、仲間と議論し、行動するスカウト」を育てる場とする

8月7日（金）を「19NSJ 令和8年熊本地震 Thinking Day」とし、各派遣隊で「ジャンボリーが終わり地元に戻った後、被災地のために自分たちができること」について、ディスカッションを行い、大会終了後に取り組む奉仕・支援アクションを策定しました。このアクションを全て集約し、千葉県連盟と大阪連盟の代表スカウト2人が若手指導者の支援を得ながら、自分たちの言葉で「令和8年熊本地震災害支援スカウト宣言」を作成し、閉会式で発表しました。これは、今回の地震の全国的な奉仕・支援活動の出発点として、19NSJを位置付けるものです。

この宣言については、別添のとおりです。全ての指導者、スカウト、保護者等の目に触れるようにご配慮ください。併せて、今後、各隊での具体的なアクションに繋がるようご指導、ご支援をお願いいたします。

3. 被災地と心を通わせる「希望の場」の創出

三毛大会長（理事長）の開会宣言の場において、黙祷を捧げると共に、次のような開会宣言がありました。本宣言の趣旨について、多くのスカウト関係者ご周知いただくと共に、スカウトにも部門の特性に合わせてご説明いただき、具体的なアクションを起こす際の一助としてください。

皆さん、こんばんは。元気な声が返ってきました。いよいよ今日から、待ちに待ったジャンボリーが始まります。前回はコロナで全国分散した開催でしたので、こうして全国からスカウトたちが一堂に会してジャンボリーを開催できるのは、実に8年ぶりの出来事です。

しかし、私たちはそのジャンボリーを始める前に、先般発生した熊本地震で亡くなった方々、あるいは被災した方々に思いを寄せたいと思います。全員ご起立いただいて、黙祷を捧げたいと思います。ご起立ください。——黙祷——お直りください。どうぞご着席ください。

今回、その被災した熊本からも、ほとんどのスカウトたちが背中を押されて駆けつけてくれました。しかし、残念ながら、皆さんと同じように参加したいと思いながら、参加できなかったスカウトもいます。私たちは、そうして参加できなくなったスカウトの分まで、その思いを胸に、このジャンボリーを有意義なものにしていきたいと思います。

さて、こうして待ちに待って、皆さんが集まったジャンボリー、これは一体何でしょう。私たちは、なぜこうしてジャンボリーに集まるのでしょうか。

それは、スカウト活動の原点をみんなで確認し合うためです。スカウト活動の原点。それは一つには、野外活動を通じて、自然という人間の力を超えた存在と向き合い、自然のもたらす恵みに感謝し、また自然がもたらす厳しい試練に打ち勝つ技術、たくましさをも身につけるということです。もう一つは、奉仕活動を通じて、社会のさまざまな課題に自らの行動をもって、その解決に貢献することです。

皆さんご存じのとおり、スカウト活動は1907年にベーデン-パウエル卿が20人の子どもとともに、イギリスのブラウンシー島で実験キャンプを行ったことに始まります。当時、Wi-Fiはありませんでした。ここのように、シャワーといった設備もありませんでした。トラックやバスで荷物を運ぶということもありませんでした。まさに自然の中に自分の足で出かけ、そこでキャンプを行い、冒険をしたのです。今、普段の生活ではスマホが手放せません。ネットで面白いゲームもできます。チャッピーに相談すれば、答えが簡単に手に入る。そんな便利な世界です。

でも、代わりに人間はどんどんたくましさを失っています。想像力も失っています。自然は私たちに豊かな恵みとともにさまざまな試練を与え、それらを通して、私たちのたくましさ、創造する力を育んでくれます。そして私たちは、このスカウト活動の中で、自然の中で生き抜くことができるよう、スキルを身につけてきました。

今、熊本地震をはじめとして、日本全国で地震や豪雨などの自然災害が発生しています。そうした時だからこそ、私たちのスカウト活動は大変貴重なものであり、そしてジャンボリーを開催する意義があるのだと、私は思います。私たちは皆、スカウトとして、このジャンボリーで被災された方々に思いを寄せながら、被災地に何ができるか、自然災害にどう備え、どう対応するのかを考え、大会の後、地元に戻って、ぜひ行動に移していただきたいと思います。

ここ神石高原は、素晴らしい自然にあふれています。先ほど、みんなで黙祷を捧げ、静かにした時に、いろいろな自然の音が、自然の音が、皆さんの耳に入ってきたと思います。そこに、日本全国から、海外から、8,000人のスカウトが集まりました。ス

カウトの皆さんは、スカウト活動の原点に戻り、日常の生活から離れて、この自然の中で冒険に挑戦し、日頃の訓練の成果を思う存分発揮してください。そして、多くの仲間たちと交流し、理解を深め、友情を育みましょう。

最後になりますが、この自然豊かな地でスカウトジャンボリー開催の機会をご準備いただき、ご提供いただいた神石高原町の皆様に、心から感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。以上をもって、第19回日本スカウトジャンボリーの開会宣言とします。

この件についての問い合わせ先

事務局 コミッショナー担当 [komi@scout.or.jp](mailto:komi@scout.or.jp)